

## 7-7 技術課題対応WG

### 1. WG 設置主旨

本 WG では、建設コンサルタントが抱える様々な課題、懸案事項について、方針、方向性を明確にすることにより協会としての基本的スタンスを確認することを目的に、常任理事会直下の WG として設立された。また WG の具体的な活動に向けて、SWG（サブワーキング）として、CIM 対応 SWG、公益活動 SWG、業務体系 SWG の 3 つを設置し活動を開始した。

### 2. 主な活動の記録

各 SWG の目的および今年度活動状況は以下のとおりである。

#### (1) CIM 対応 SWG

国交省が主導する i-Construction 及び CIM 導入推進施策に関し、平成 29 年度より施行予定の「CIM 導入ガイドライン」他、関係要領・基準類のフォローアップ等の技術検討を実施するため、関連委員会ならびに WG 等に継続参加し、当協会意見を反映したこれら技術資料の策定支援を目的とした。

平成 28 年度の主な活動内容は以下のとおりである。

- ・ CIM 対応 SWG の開催(平成 28 年 12 月幹事会)
- ・ CIM 導入推進委員会への参加
  - 第 1 回 CIM 導入推進委員会(平成 28 年 6 月)
  - 第 2 回 CIM 導入推進委員会(平成 28 年 11 月)
  - 第 3 回 CIM 導入推進委員会(平成 29 年 3 月)
  - その他、CIM 導入関連 WG(平成 28 年 11 月)
- ・ i-Construction 関連協議会への参加
  - ICT 導入協議会(年 3 回開催)
  - コンクリート生産性向上検討協議会(年 3 回開催)
- ・ 建設通信新聞(CIM 特集)への寄稿 等

#### (2) 公益活動 SWG

会員相互の技術支援を目的とした、道路橋技術相談窓口を開設し運営中である。本活動は、建設コンサルタント成果の品質向上・レベル向上のため必要な活動であるとの認識の下、国総研・土研の全面的な協力を頂き、平成 25 年 9 月から運営されている。平成 27 年度には道路橋示

方書 5 編に加え、函渠・擁壁に対する窓口を設けた。

道路橋技術相談窓口受付および回答状況は、以下のとおりである。

平成 25 年 9 月～平成 26 年 3 月 21 件  
(内訳 基礎 4 件, 下部工 6 件, 耐震構造 10 件, その他 1 件)

平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月 10 件  
(内訳 基礎 3 件, 下部工 3 件, 耐震構造 3 件, 函渠擁壁 1 件)

平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月 15 件  
(内訳 基礎 1 件, 下部工 3 件, 耐震構造 9 件, コンクリート構造 1 件, 鋼構造 1 件)

平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月 11 件  
(内訳 基礎 1 件, 下部工 3 件, 耐震構造 5 件, 鋼構造 1 件, 函渠擁壁 1 件)

その他、国総研・土研と道路構造物関連の意見交換会を 7 月に開催し、相互の活動状況に対する意見交換を行った。出席者 国総研 10 名 土研 6 名 建コン側 計 31 名

#### (3) 業務体系 SWG

社会資本の建設事業や維持管理・更新事業における建設コンサルタントの役割について、主に以下の点について検討を行った。

- ・ 橋梁修繕事業における課題検討および設計者と施工者の連携による課題解決の検討
  - 日本橋梁建設協会との共同勉強会を通して、双方の課題と連携による課題解決に向けた調達制度を検討し基礎資料を作成した。
- ・ 多様な入札契約方式における建設コンサルタントの役割の検討
  - DB や ECI など事業特性等に応じて多様な入札契約方式の採用が試行、実施されてきているが、事業の円滑かつ公平な推進においては発注者側の体制を補完する建設コンサルタントの役割(CM)が重要となっている。その必要性等について検討、整理を行った。

### 3. 次年度について

協会として新たな技術課題が発生した時点で、上記 SWG に適宜、追加課題として検討すると共に必要に応じて SWG を追加する。

(技術課題対応WG WG 長 高野 登)